

2023年6月2日 第3432回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 前田 会長
 <斉唱> 「君が代」「奉仕の理想」 ソングリーダー 佐久間博一 会員
 <唱和> 「四つのテスト」
 <ゲスト紹介> *上智大学講師 水谷 修 様

- *社会福祉法人聖テレジア会
 聖ヨゼフ病院 病院長 柴田 朋彦 様
 *大和証券(株)横須賀支店 支店長 寺田 義則 様

- <誕生日祝> *勝間 佳枝 (S. 8.6. 1) *植田 威 (S. 34.6. 1)
 *山田 晴史 (S. 36.6. 1) *織茂 明彦 (S. 28.6. 8)
 *小澤 長幸 (S. 44.6.10) *加藤 淳 (S. 37.6.18)
 *齋藤 眞且 (S. 28.6.19) *笠木 英文 (S. 22.6.23) 各会員

- <入会月祝> ・江沢 暁彦 ・五十嵐 俊男 ・勝見 慎一 ・山下 和男
 ・鈴木 孝博 ・八木 達也 ・久保田 英朗 ・渡邊 磨
 ・前川 静子 ・鹿島 勇 ・木村 一郎 ・加賀本 好美
 ・松本 明弘 ・中村 清乃 ・畑 宏明 ・来生 亮
 ・加藤 淳 ・大野 健男 ・岡田 圭太 ・山田 哲也
 ・永井 信年 各会員

- <会長報告> *梵鐘返還62周年記念式典 報告
 *ピンクリボンウォーク2023のご案内

<2023年ロータリー国際大会の報告> 藤村昌一会長エレクトより 開催地：メルボルン

- <委員長報告> *雑誌委員会 臼井委員長よりロータリーの友6月号
 *出席委員会 加藤 淳 委員より5月出席報告 5月分平均出席率 73.79%

	会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
5月12日	113名	100名	70名(1名)	30名	8名	78.00%
19日	115名	103名	72名(7名)	31名	7名	76.70%
26日	115名	102名	60名(6名)	42名	8名	66.67%

- <幹事報告> *週報・横須賀北RC/横須賀西RCより受領
 *第11回理事会・役員会報告

- <出席報告> *出席委員会 加藤(淳)委員より6月2日出席率報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
115名	102名	60名(6名)	42名	8名	66.67%

<ニコニコ報告>

- ・三 役 上智大学講師 水谷修様、本日はよろしくお願ひいたします。
- ・比護、田中、梁井、松岡、鈴木(2)、前川、福西、権田、小平、高橋、徳永、澤田、新倉(2)、佐久間、田邊、濱田、猿丸、臼井、土田、齋藤(眞)、江沢、三堀、杵渕 各会員
 上智大学講師 水谷 修 様、ようこそ横須賀ロータリークラブへお越しくださいました。貴重なお話をお聞きできることを大変楽しみにしております。本日の卓話よろしくお願ひいたします。
- ・山田(備)、織茂、小澤、加藤(備)、齋藤(眞) 各会員 誕生日祝いとして
- ・江沢、鈴木(備)、八木、渡邊、前川、加賀本、松本(備)、加藤(備)、大野(備)、岡田(圭) 各会員 入会月祝いとして
- ・加賀本 会員 誕生日祝いとして(5月)

- ・比 護、椿、八 卷、大 石、渡 邊、石 田、鈴木 勲、杉 浦、
小林 勲、高 橋、新倉 勉、吉 田、小 沢、上 林、澤 田、加藤 勲、
根 岸、田 邊、濱 田、小佐野、八 木、小保内、齋藤 眞 各会員
東京海上日動火災保険 (株) 横須賀支社長 渡辺 努 様、日本水産観光 (株) 取締役
社長 小澤長幸様、横須賀RCへのご入会おめでとうございます。共にロータリーライ
フを楽しみましょう。
- ・小 澤 会員 6月より入会させていただきました。よろしくお願いいたします。
- ・渡 辺 会員 この度、伝統と格式の高い横須賀ロータリークラブに入会させていただきました。何卒よろしくお願いいたします。
- ・5番テーブル根岸マスター、岡田 圭 サブマスター 5月26日5番テーブルミーティングをビストロ・
ブルゴーニュ/メルキュールホテル横須賀で開催いたしました。美味しい食事、素晴らしい
景色、とても楽しいTMGでした。瀬戸幹事、兼城SAA、角井副SAA、事務局三宅
さんご出席ありがとうございました。猿丸会員ありがとうございました。
- ・兼 城、椿、飯 塚、外 木、権 田、Enora、萩 原、齋藤 眞、角 井 各会員
5月26日、メルキュールにて5番テーブルミーティングが行われました。根岸マスタ
ー、岡田 圭 サブマスター、猿丸会員ありがとうございました。
- ・小佐野、藤 村 両会員 5月24日から31日までの8日間、オーストラリア・メルボルンの国際大
会ツアーに行っていました。帰りはトランジットを含めて24時間以上かかりまし
た。事故もなく無事に戻ってまいりました。
- ・鈴木 豊、石 田、南、松 岡、杉 浦、前 川、長 島、高 橋、新倉 勉、小 沢、福 西、
江 口、齋藤 眞、澤 田、佐久間、濱 田、土 田、齋藤 眞、齋藤 隆、江 沢、徳 永 各会員
前田会長、おかえりなさい！今年度もあと1か月となりましたが、残りの例会もお元氣
で頑張ってください！
- ・前 田 会長 いよいよ最終月となりました。一年間ありがとうございました。御礼を申し上げます。

<卓 話> 「壊されてゆく子どもたち - 夜回り先生、いのちの授業」

上智大学講師 水 谷 修 様

皆さんこんにちは、私は皆さん方とは全く違う世界を32年生き抜いてきた人間です。皆さんは昼の世界の住人。私は32年間夜の世界を這い回ってきた人間です。32年前まで私も昼の世界の住人。私は32年前、自ら望んで生徒数800名を擁する全国最大の公立夜間定時制高校である横浜市立港高校に勤務しました。今は廃校になっています。物凄い学校でした。学校の中にバイクで突入してくる。入ってきた子たちの半数近くが辞めていき、暴力団、あるいは夜の世界に沈んでいくという学校に勤務しました。その日から夜の世界の生活、夜回りを始めました。夜の街に沈む子どもたち、悪い大人の餌になる子どもたちを一人でも多く昼の世界に戻したい、教室に戻したい。毎晩のように、夜10時から朝の4時5時まで横浜を回っていました。

この横須賀もどれだけ回ったかわかりません。夜眠らず、悪さをする・悪さをした子どもたちを昼の世界に



戻してきました。彼らには言っている。一人も死ぬな、お前たちが一人でも死んだら水谷も生きる訳にいかない。私はそういう夜眠らない子どもたち、夜の街で悪さをする子どもたちと共に32年生きてきました。また、今から22年前、全く新しい問題を抱える子どもたちの存在に気づきました。一人の少女と出会いました。どう見ても私の関わる子じゃない。二人きりになった瞬間に泣き始め、数分後に腕をまくりました。無数のカミソリで切った痕、リストカットでした。私が初めて会ったリストカッターでした。今、リストカッターは200万人いると言われてます。また、リストカットだけではなく、その先にあるオーバードーズ、すなわち処方薬・市販薬を多量に飲み込む、横須賀にもたくさん相談に来る子がいます。そして最後は死に至る。なんとかこの子たちを助けたいと思い、水谷青少年問題研究所を作り、研究所のメールアドレスと電話番号をあらゆるメディアで一斉に公開しました。24時間365日、その子どもたちの命の悲鳴に付き合っています。

我々は夜眠ることが許されない人間です。でも圧倒的すぎました。現在に至るまで電話は数えきれません。メールは記録が残ります。110万の関わった子どもたち。若者たちの数は52万を超えました。我々の合言葉はただ一つ、一人も死なさない、でも駄目でした。分かっているだけで、294の尊い命を心の病による自殺・事故で亡くしています。横須賀の子は3名います。92名の尊い命を薬物ドラッグによって奪われました。何度この戦いをやめようと思ったか分かりません。それでも戦い続けてきたのは、関わった子どもたち、若者たちのほとんどが笑顔になって、昼の世界に戻ってくれたからです。彼女ら彼らから届く、ありがとうの一言が私たちの戦いの原動力でした。

でも、どうしてこの国がそんな風になってしまったのか分かりますか。事の発端はバブル経済の崩壊にあります。バブル経済が崩壊するまでの我が国、先輩たちは本当によく頑張ってくださいました。12時間労働なんて当たり前。なんとかこの国を豊かな国にしよう。子供たちが笑顔で生きれる国にしよう。必死で働いてくださいました。だから着実に経済成長を続けていったのです。ですが最後の10年は伸びすぎです。バブルが崩壊するまでの我が国日本は、真面目に努力したら真面目に勉強したら真面目に働いたら必ずお国も会社も報いてくれる、当たり前のことが当たり前だった。それが、ぶっ飛びました。以来、その後10年は地獄のような10年です。覚えてらっしゃると思います。あの当時大学卒業や高校を卒業しても就職できなかった子供たち。フリーターあるいはアルバイトで生きて来て、そのうち病んで引きこもってしまってる。これが今、問題になってる。そしてそんな中、社会全体がイライラしてきています。では、今景気は回復したのか？政府はそう言います。金持ちはどんどん金持ちになってます、認めます。その一方で、分厚い中流と言われたこの国を本当に支えている7割が下から崩されている、五本指に入る経済大国日本ですよ。7人に1人の子供が3度の温かいご飯を食べられないんですよ。7人に1人の子供に親が居ない、貧しいが故に進学ができない、大学進学もできない、夢を持ってない、こんな馬鹿な話がありますか。その3度に1回ご飯を食べられない子供たちのために子供食堂というのを私が最初に作りました。もう20年以上前です。一昨年までは5000カ所弱だった子供食堂が今は1万カ所に広がっています。1回ご覧に行ってみてください。そして、そんな中で社会全体がイライラしています。学校の生徒たちに訊いたら、95%以上の中学生・高校生がイライラしている。まさに社会がそうになっています。会社もどうですか？皆さん方の会社は、いつもニコニコ笑顔で、みんなが優しく、助け合ってやっていますか？社会全体がイライラしていませんか？お父さんやお母さんはいくらでもガスは抜ける。でも子供たちは昼の学校、夜の家庭しかないのです。学校の教員もイライラして、子供たちがこの10年破裂しています。一つの大きな問題を私たちに突きつけてきてるじゃないですか。いじめ、不登校、引きこもり、心の病、リストカット、自殺、薬物です。日本国民ってというのは、民族的に7%程度精神性の強い人間がいます。うまく育つとこの国の指導者、悪く育つと夜の指導者。世界で最も精神性の強い民族というのはアラブ人と言われてます。砂漠という過酷な環境の中で何千年と生き抜いてきたため荒ぶる宗教であるイスラム教が生まれたと言われてます。世界で最も弱い、ある意味で優しい民族というのはインド人と言われてます。いくら畑や田んぼを作ろうと6月の雨の時に全部流される。諦めてもう一回植えるしかない。だから耐える宗教の仏教が生まれたと言われてます。日本の7%の子供たちはブチ切れる訳です。「もういいよ、親も先生も俺のことなんかどうでもいいんだろ！」そして夜の世界で犯罪、薬物乱用に入る。中間層の子供たちは彼らだってイライラしている訳ですから、そのイライラのガス抜きが必要です。一番やってはいけないことをやる「いじめ」です。大事な仲間をいじめることでガス抜きをしている。いじめを子供と子供の間の問題にしてはいけない。いじめている子だっていじめられているんですよ。いじめはいじめている子の家庭の問題なんじゃないですか。ひいては我々が作った

このイライラした社会全体の中に原因がある。そこからほどかない限り、いじめは無くなりません。心優しい子は心を閉ざし不登校となります。もっと優しい子は自分を責めてリストカットをする。そこから逃げようとして市販薬、処方薬を多量に飲む。そして死へと向かっていく。

ロータリアンの皆さんにお願いします。まずは皆さん方の家庭や会社から変えてください。ご家庭に帰ったら子供たち、孫たちに優しい言葉をかけてあげてほしいのです。我が国は優れた国だ。かつて先人は子供は10褒めて1叱れと言った。でも今の親たち会社の経営者もそうだ。教員もそうだ。10叱って1も褒めない。ここに大変な問題が起きてるんじゃないでしょうか。こんな基本的なことをこの国は忘れるほど殺伐とした国になってます。その根底にあるのは優しさを失った、直接的な人間関係の触れ合いを失った私たちの社会、それが原因の一つだと思います。

もう一つは電子機器です。携帯電話メール、インターネット、ゲーム機。この横須賀から非行犯罪、子供たちの不登校、あるいは心の病を一举になくす簡単な方法があります。横須賀市の電源を夜の9時から朝の6時まで全部落とすのです。ネットワークもでき無くして、夜を夜にして健全な生活をしていけば、子供たちの心の病などすぐなくなります。でもそれは不可能でしょう。そうしたら、夜の9時から朝の6時まで電子機器を使わない。まずは、大人が手本を見せて、夜の9時から朝の6時までテレビも含めて電子機器を使わない生活を子供たちに見せてやってほしいのです。夜は危険な時間なんです。我々人間は動物です。我々は夜行性じゃなくて、昼生きる動物なんです。昼生きる人間という動物にとって、夜は寝る時間、寝るということは一番無防備になる。だから我々は夜が怖い、暗闇を恐れる。また非常に不安定になり、不安になる。その不安定・不安な時間に未熟な子供たちがネットやゲーム、仮想現実の世界に行くから、染められすぎて戻れなくなる。夫婦間の話も夜だと必ず喧嘩になるんです。太陽の下で話をちゃんとすれば良いんです。それをぜひ子供たちに伝えてあげてほしいと私は考えます。

あと1人少女の話を聴いてください。1999年4月2日、ホテルに60代の男と入ろうとした制服姿の少女を補導しました。少女の名は「愛」です。当時中学校3年でした。この子は、お父さんは中小企業の社長、お母さんはピアノの先生。良い環境のお嬢さんです。お姉ちゃんは小中高大学は学習院。愛は小学校受験失敗、中学校受験は滑り止めにまで落ちた。その時、母親の言った一言、「あんな程度の中学も落ちるなんてあんた一体誰の子。」この一言が切っ掛けで、愛は夜の世界にデビューしました。でも目立ちすぎれば男は半殺し、生意気な女の子は乱暴される。中2の7月7日、7人の先輩たちに強姦されました。その後も45人の中高年の男に体を売られました。ある日、性感染症の泌尿器科の病院に連れて行きHIV検査をしました、HIVプラス。その後は壮絶です。家出を繰り返して夜の街でピルを手に入れ、妊娠を抑え、千名以上の中高年の男にコンドームをつけずに性を売りました。13歳にとって生きるとは復讐でした。一人でも多くの中高年の男にHIVをうつし返す。8ヶ月後、保護して我が家に連れて帰って心のケア、医療的なケア、親子関係の修復、そしてやっとあの子にも夢ができました。湘南にあるあの可愛い制服の高校行きたいな。よく努力して1年後に見事に合格、でも卒業はできませんでした。高校2年の12月、17歳でHIV発症。HIVは発症したら終わりです。今なら生きていましたが、治すことはできません。ワクチンはまだまだできないと言われていました。しかし、すでに生き残る可能性の非常に高い病気の一つまで我々は進歩しました。でも当時は無理でした。愛がどんどん無残に変わる。辛くて病室のドアを開けられなくなりました。5月の連休後、ドクターに頼まれた。「水谷さん、愛ちゃんがあんたの本を読んで泣き、あんたと写った写真を抱きしめて一晩一晩死に向かっている。あとわずかな愛ちゃんの明日にあんたがいるんだ。」心を決めて、翌日、病室には入りました。でも、愛を一目見ても言葉にならなかった。愛の手を握ったらこう言いました。「先生お願いがある。聞いてくれる?」「いいよ。愛、何でも聞いてやる。」「先生すべての講演で愛のことを話して。特に中高生の後輩の女の子たちが愛の話を聴いて、たった一人の子でも、夜の世界から昼の世界に戻ってくれたら、愛がこの世に生きてって意味があったってことになるよね。愛の話を聴いて、たった一人の子でも、昼の世界から夜の世界に行かなくなったり、たった一人の親でも子供に優しくなってくれたら、あの世へ行って神様、愛ちゃんよくやったねって褒めてくれるよね。」愛と約束をしました。愛との別れはすぐに来ました。投薬により意識をもうろうとさせ、死を感じなくさせ、心臓を弱らせ、2ヶ月程度で眠るように死なせてやるはずでした。愛の最期の言葉は、父さんありがとう、母さんありがとう、お姉ちゃんありがとう、水谷先生ありがとう、みんな・みんなありがとう、だったんです。でも愛の心臓は止まってくれません。理由は簡単です。愛はありとあらゆるドラッグを使っていました。血清薬慣れが起きていました。10月15日未明に苦しみながら亡くなりました。最後の数分、意識を戻して一生懸命喋

ろうとしていた。でも舌は巻き込んで、もう喋れませんでした。目はこう言っていました。先生、助けて死にたくない。私を睨んで死んできました。目はこう言っていました。先生なんで助けてくれないの？私を殺したのあんただよ。これが私の生きる夜の世界です。私は昼の世界に戻ることでできない人間です。私は癌を患って7回手術をしております。そろそろあの世の入り口が見えてきた。死ぬなら夜の街で死にたいと思っています。最後の日まで一日でも長く夜の世界に留まって、一人でも多くの子どもたちを昼の世界に戻す。それしか許される人生はないと思っています。そんな私から皆さん方へのお願いです。本当はどの子どもも温かい家庭でたくさんの優しさの中で生きたい。本当はどの子どもも温かい優しい先生がいっぱい居る学校でたくさんの明日、未来を語ってもらっていききたい。夜の世界の子どもたちは捨てられた子どもたちです。捨てているのは一体誰なんですか。それを考えていただきたいと私は思っております。

今から3年前、3月2日、新型コロナウイルス感染拡大の中で全国すべての小中高大学を閉鎖すると政府が言いました。この選択は当たり前です。感染症予防のためには、一番の感染源になる子どもたちの集合する場所を閉じる。でもそのとき一番困ったのは、我々子ども食堂を維持している人間です。春休みの前には1ヶ月くらい、夏休みに関しては3ヶ月くらい、色々なところから協力を頂き、お金や食べ物を補助して頂く。何の準備もできないままに、3月3日から子ども食堂が全日運営せざるを得なくなりました。3月23日緊急で電話がありました。水谷先生、子どもたちがご飯を作るのを半分にしてくれ、半分しか食べないって言う。すぐに車を飛ばして行きました。夕飯はカレーライスだったんですが、みんな半分しか食べないんです。その子どもたちを集めてお前たち本当のこと教えてくれ、本当はお腹空いているんじゃないか。なんで半分しか食べないんだって訊いたらこう答えました。先生なら言うよ。先週こうやって夜勉強していたら隣の部屋からスタッフの言うこと、話している内容が聞こえたんだ。米もなくなるね。お金もなくなるね。水谷先生に迷惑かけたくないねって話していた。だから、僕たちみんな話して、半分しか食べないようにした。この日本ですよ！子どもたちに3食3度の飯も食べさせられないような我々に明日がありますか。私は彼らに言いました、いくらでも食えろ。多くの方々が必死で協力してくださって、なんとかあの時期を乗り切りました。政府も動かして、農林水産省の備蓄米を3年前は60キロ、2年前は300キロ。昨年からは子ども食堂が必要な米に関しては必要なだけすべて備蓄米からの供出してもらうようにしました。世界を見るもいい。でも、自分の足元で涙を流したり、命を絶ったり苦しんでいる子を作らないように、この横須賀の子どもたちを皆さんの手で守ってあげてください。そのお願いをして私の話とさせていただきます。今日はお招きありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 前田 会長

週報担当 南 裕 貴